

## 第4章 平成10年大阪府産業連関表の推計方法

### 1. 生産額の推計

93部門(中分類)について、各種統計資料により推計した。ただし、資料の制約から、直に大阪府の生産額を求めることが困難な部門については、関連指標を用いて全国値を按分する等の方法を採用した。また、93部門で直接推計するのが困難なときは、一旦基本分類で推計してから中分類に統合した。

#### [利用した主な資料]

農 林 水 産 業	大阪農林水産統計年報、府民経済計算基礎資料ほか
鉱 業	砕石統計年報ほか
製 造 業	工業統計組替値、生産動態統計、石油化学製品月報、プラスチック月報、有機薬品月報、環式中間物及び合成染料月報、油脂製品・石けん・合成洗剤等月報、エネルギー生産・需給統計年報、セメント製品月報、生コンクリート統計年報、鉄鋼統計年報、機械器具月報ほか
建 設	府民経済計算基礎資料ほか
電力・ガス・水道	電力需給の概要、関西電力損益計算書、地方公営企業年鑑、大阪府の水道の現況、大阪府の一般廃棄物、府民経済計算基礎資料ほか
商業・金融・保険	金融経済統計月報、生命保険事業概況、郵政行政統計データ、府民経済計算基礎資料ほか
不 動 産	府民経済計算基礎資料ほか
運 輸	陸運統計要覧、港湾統計年報、総務省統計年鑑、事業所・企業統計(全国・大阪編)、倉庫統計季報、府民経済計算基礎資料ほか
通 信 ・ 放 送	府民経済計算基礎資料ほか
公務・サービス他	特定サービス産業実態調査報告書、事業所・企業統計(全国・大阪編)、府民経済計算基礎資料ほか

### 2. 投入係数の推計

まず、平成7年全国基本表と平成10年全国延長表を用いて投入係数の変化率を算出し、これを平成7年大阪府基本表の投入係数に乗じた。しかし、これだけでは列和が1とはならないので、各列の値を列の合計値で再度割り戻すことにより調整し、平成10年大阪府延長表の投入係数を求めた。

従来、使用していたRAS法と、上記方法を用いて、平成2年の投入係数をもとに平成7年の予測値を求め、平成7年の実数値と比較してみると、上記方法がより実数値に近い結果となったので、今回上記方法を使用した。

### 3. 中間投入額及び粗付加価値額の推計

1. の生産額に2. で求めた投入係数に乗じることにより、中間投入額、粗付加価値額を求めた。

## 4．最終需要部門の推計

### (1)家計外消費支出

家計外消費支出総額は本来、粗付加価値部門の家計外消費支出の行和と同額となるべきであるが、基礎統計の制約から、本社・営業所等経費について財・サービス別に移入して投入する方法を採用しているため、同額にならない。そこで、平成10年最終需要部門の家計外消費支出総額の算出に当たっては、まず、平成7年家計外消費支出総額の比率(最終需要部門の家計外消費支出総額/粗付加価値部門の家計外消費支出総額)を算出し、これを平成10年粗付加価値部門の家計外消費支出総額に乘じることにより求めた。また、平成10年家計外消費支出の内訳額の算出に当たっては、まず、平成7年大阪府基本表における家計外消費支出の内訳額の構成比を求め、これに平成7年全国基本表に対する平成10年全国延長表の同項目の変化率を乘じて、平成10年大阪府家計外消費支出内訳額の構成比を求めた。これを平成10年大阪府家計外消費支出総額に乘じることにより求めた。

### (2)民間消費支出、一般政府消費支出、府内総固定資本形成

各項目の総額については、府民経済計算の平成7年から平成10年(暦年換算)の伸び率を算出し、これを平成7年大阪府基本表の値に乘じることにより求めた。内訳額の算出方法は、家計外消費支出と同様である。

### (3)在庫純増

平成10年工業統計調査の数値が使える部門についてはそれを基に推計を行い、他の部門については平成10年全国延長表の生産額等に占める在庫純増の割合を算出し、平成10年大阪府延長表の生産額等に乘じることにより求めた。

### (4)輸 出

各部門について、平成7年全国基本表から平成10年全国延長表への輸出率(輸出額/生産額)の増加率と平成7年大阪府基本表の輸出率を算出し、それらを平成10年大阪府延長表の生産額に乘じることにより求めた。

### (5)移 出

各部門について、平成7年大阪府基本表の移出率(移出額/生産額)を算出し、平成10年大阪府延長表の生産額に乘じることにより求めた。

### (6)輸 入

各部門について、平成7年全国基本表から平成10年全国延長表への輸入率(輸入額/府内需要合計)の増加率と平成7年大阪府基本表の輸入率を算出し、それらを平成10年大阪府延長表の府内需要合計に乘じることにより求めた。

### (7)関 税

各部門について、平成10年全国延長表の関税率(関税額/輸入額)を算出し、平成10年大阪府延長表の輸入額に乘じることにより求めた。

### (8)輸入品商品税

各部門について、平成10年全国延長表の輸入品商品税率(輸入品商品税額/輸入額)を算出し、平成10年大阪府延長表の輸入額に乘じることにより求めた。

#### (9) 移 入

各部門について、平成7年大阪府基本表の移入率（移入額／府内需要合計）を算出し、平成10年大阪府延長表の府内需要合計に乗じることにより求めた。

### 5 . バランス調整

個々に推計された結果を集めた一次表においては、必ずしも投入と産出とのバランスが成立していない。しかし、投入面では2 . の作業ですでにバランスがとれているため、産出面（移出、移入）でバランス調整を行った。その方法として、一次表の値とバランス調整後の値の乖離率が小さくなるように、ラグランジェ乗数法を用いた。

## 平成10年大阪府産業連関表(延長表)作成の流れ

### 中間需要、粗付加価値の推計

### 最終需要等の推計

